



SANSHIN GROUP
Monthly Report on the ESG
Aug.2025

INDEX

1. TOP MESSAGE
2. グループ社員による今月のつぶやき
3. ESG Report（品質）
4. ESG Report（環境）
5. ESG Report（地域貢献とワーク・ライフ・バランス）
6. サンシングループの経営理念とCSR
7. 経営戦略体系と管理会計のかかわり
8. サンシングループの社会的責任
9. サンシングループの企業行動基準
10. サンシングループのマネジメント・コントロール・システムズ
11. 未来形から問題を解決するソウレンハウ

TOP MESSAGE

黒潮大蛇行、ついに終息へ – 7年9か月ぶり、“本来の流れ”へ回帰 –

2017年8月から続いていた「黒潮大蛇行」が、2025年春、ついに終息を迎えました。

気象庁は令和7年5月9日、黒潮が平常の流路に戻ったことを正式に発表。7年9か月という異例の長期蛇行に一区切りがついた形です。この大蛇行では、黒潮が伊豆・東海沖を大きく南に逸れ、海水温の変動や魚の回遊ルート、気象パターンなどに広範な影響を及ぼしました。

終息によって、カツオや青物など回遊魚の接岸、沿岸漁業の回復、猛暑や豪雨といった気象の極端化緩和などが期待されます。一方で、黒潮が本州沿岸に接近することで、逆に暑さが強まる可能性も指摘されています。沿岸の海水温上昇が熱帯夜や高湿度をもたらすケースもあり、今後の動向には注視が必要です。

長く続いた“うねり”が静まりつつある今、黒潮とともに、海も空も穏やかさを取り戻していくことを願いたいところです。

サンシン電気株式会社
執行役員 清原 幸雄

グループ社員による今月のつぶやき

SANSHINEast

雨の降り方が昔と変わってきたように思います。日本国内の大雨、短時間強雨の発生頻度は増えており、逆に雨の降る日数は減少してるのだそうです。雨の降り方が極端になる傾向が続くと土砂災害や洪水浸水リスク、特に都市洪水リスクが増大します。今までより天気予報の精度も上がっていますし、しっかりと情報収集して災害に備えましょう。

(Y.Y.)

SANSHIN Hong Kong

私の田舎は家から海が見える漁港町だが、海の中に廃棄された物質が蓄積されていくと魚等は産卵する場所を失くし、また誤ってゴミや油などを飲み込んだ場合は、そのまま命を落としてしまうケースもある。結果、海洋生物は減少し、漁業は衰退の一途を辿る。ただでさえ後継問題も抱えており、高齢化が進み過疎化が進むばかりだ。(A.A.)

CSI

孵化直前のアヒルのゆで卵「バロット」は栄養満点のスタミナ食材としてセブではよく知られています。カラを半分むき、鷹の爪で辛みを利かしたお酢をかけて食べます。現地の人でも食べる人と食べない人とにわかれます。私は食べません。

(K.S.)

SANSHINWest

猛暑・酷暑が続いています。日本の最高気温記録更新は、埼玉県や群馬県で競っている印象がありますが、7/30には兵庫県伊丹市で41.2℃を観測し、国内史上最高気温記録となりました(8/5には群馬県伊勢崎市に41.8℃で記録更新されています)。合わせて豪雨災害のニュースも続いており、熱中症対策と、地域によっては身の安全も確保しながら、夏を乗り切りましょう。(Y.S.)

SHINKOWA

千葉工場周辺の田んぼも早く稲が育っているようですが、高温障害や、水不足によりお米の出来が良くなさそうです、またお米の値段も上昇しそうですね。野菜のキュウリなどが高温により不作で高値になっているそうです、今までの“米や野菜が安い”って言うのが普通に無くなりそうですね。(M.N.)

SC2

【令和の巖嵐】お盆休みに知床で起きた巖(ひぐま)人身被害は列島を震撼させました。山の開発や気候変動による餌の減少など原因は多々あるでしょうが、人里の食べ物や洗剤等、人間の生活臭が熊を惹きつける要因となっていることも知られるべきでしょう。熊のいる山に入る時は純石けんすら使用禁止だそうです。自然や野生動物について、学ぶ機会を増やしていきましょう。(M.I.)

ESG Report (品質)

サンシングループの品質方針

サンシングループは、品質マネジメント・システムの効率的な運用により、お客様の満足にかなう企業活動を行い、社会へ貢献していくために、以下の品質方針を策定しています。

1. 企業活動において、いかなる場合も品質マネジメント・システムを遵守し、お客様に信頼される品質の提供に努めて参ります。
2. 企業活動に係る法規制およびその他の要求事項に関して、コンプライアンスの遵守を通して品質の向上に努めて参ります。
3. 品質マネジメント・システムは、定期的な内部監査及びマネジメント・レビューを行い、実態業務に沿った具体的な是正と改善を図って参ります。

品質への取り組み

要因分析

<品質管理の基本である5M>
Material (材料)、Machine (製造機械)、Method (製造方法)、
Man (担当者)、Measurement (計測)

段取り

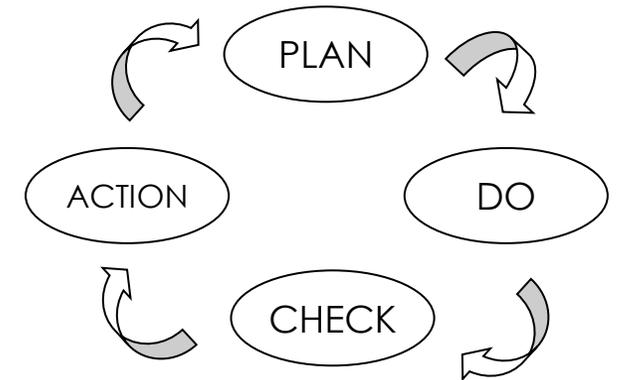
<仕事の段取り5W3H>
5W : When (いつ)、Where (どこで)、Who (だれが)、What (なにを)、Why (なぜ)
3H : How (どのように)、How much (いくら)、How many (どのくらい)

行動

<製造の基本である3現主義>
現場、現実、現物

管理

<品質管理の基本はロット管理と変更管理>



- EMS先との継続的な品質会議の実施。(1回/隔月)
- 定期監査の実施。(1回/1年程度)

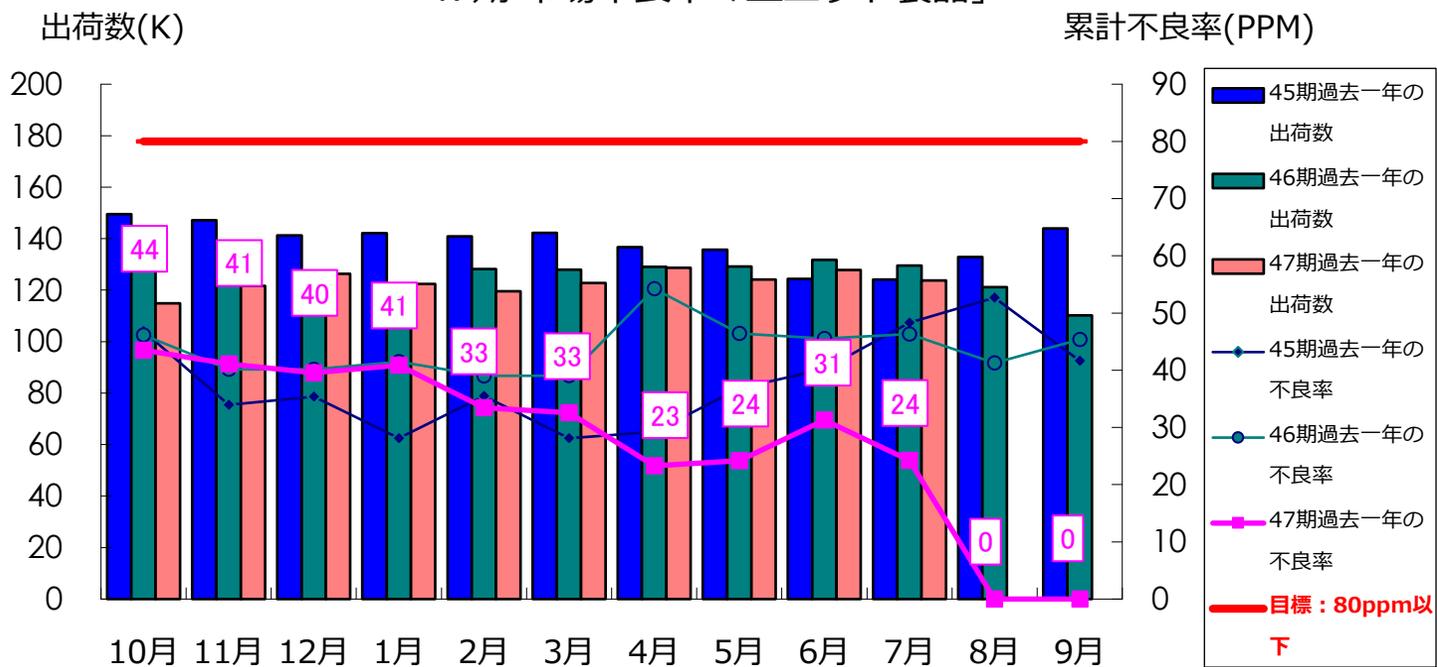
* 最も大事なのが、継続させるための「**個人の意志**」である。

品質状況

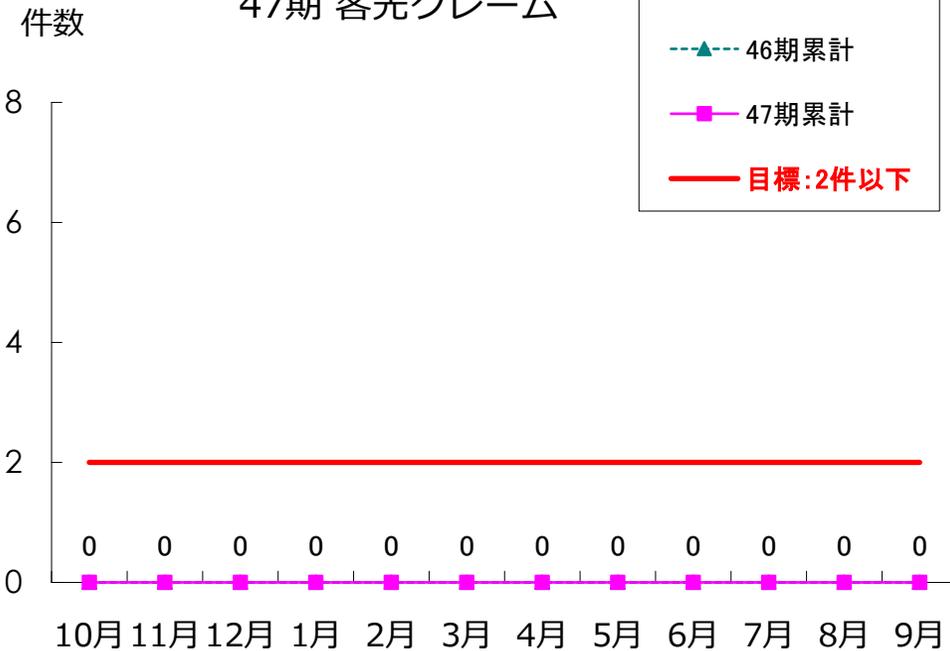
納入品不良率 (目標 : 80ppm)
 47期の累計不良率(解析依頼含む) : 24ppm

客先クレーム (目標 : 2件以下) : 0件

47期 市場不良率「ユニット製品」



47期 客先クレーム



ESG Report (環境)

TOPICS

□ 夏の甲子園、暑さとの戦いと開催地の議論

夏の甲子園、それは日本の夏を象徴する風物詩です。選手たちの汗と涙が染み込んだグラウンドは、多くの人々に愛されてきました。しかし、近年、地球温暖化の影響で猛烈な暑さが続き、選手や観客の安全を守るための対策が喫緊の課題となっています。

■ 昔の甲子園、暑さへの向き合い方

甲子園の暑さ問題は、特に2010年代以降に本格的に問題視され始めました。それ以前も暑さはありませんでしたが、今ほどではありませんでした。当時の選手たちは、スポーツドリンクと並んで、砂糖漬けにした冷たいレモンや氷で身体を冷やすといった、比較的「原始的」な対策で対応していました。今のようにダグアウトに冷房設備もなく、扇風機やミストシャワーなどもありませんでしたが、そうした素朴な方法でも乗り切れる暑さでした。

■ 近年の急激な気温上昇と本格的な対策

2000年代以降、日本の夏の平均気温は上昇の一途をたどり、特に2010年代に入ってから、甲子園の開催時期である8月に観測史上最高気温を更新する日が相次ぎました。この急激な気温上昇により、昔ながらの対策では対応しきれない状況となり、選手や観客の熱中症リスクが深刻な問題として浮上しました。これを受け、日本高等学校野球連盟（高野連）や主催者は、近年さまざまな対策を講じています。

- ・クーリングタイムの導入: 2020年から、5回終了後に選手が休憩を取る時間が設けられました。
- ・試合開始時間の変更: 暑さのピークを避けるため、準決勝や決勝の開始時間を早める措置が取られました。
- ・「2部制」の試行: 2024年の大会では、朝と夕方の2部に分けて試合を行う「2部制」が一部導入されました。

TOPICS

□ 聖地か、安全か？揺れる選択

選手たちの汗と涙が染み込んだグラウンドは、日本の夏の風物詩として多くの人々に愛されてきました。しかし、近年問題となっているのが、地球温暖化による猛烈な暑さです。この過酷な環境が、選手や観客の安全を脅かしており、「ドーム球場で開催すべきではないか？」という声が高まっています。

□ 伝統と憧れの「甲子園」開催論

甲子園球場での開催を支持する人々にとって、この場所は単なる野球場ではありません。1924年の第1回大会から続く、100年以上の歴史を持つ「聖地」です。

高校球児たちが目指すのは、この土の上でプレーすること。甲子園のアルプススタンドからの大歓声、そして試合後に土を集める姿は、高校野球の象徴そのものです。「甲子園には特別な魔物が住んでいる」という言葉があるように、この球場が持つ独特の空気感は、ドーム球場では再現できません。土のグラウンド、自然の風、そして何より、歴史が醸成してきた文化的な価値こそが、甲子園での開催を支持する最大の理由となっています。

□ 安全と公平性を求める「ドーム」開催論

一方で、ドーム球場での開催を求める声は、選手の安全を最優先に考えています。近年、熱中症で搬送されるケースが増加しており、選手の健康リスクは無視できない問題です。クーリングタイムや試合時間の調整といった対策も進められていますが、根本的な解決には至っていません。ドーム球場であれば、空調が完備されているため、天候や気温に左右されず、常に安定した環境で試合ができます。これは、暑さだけでなく、雨天による試合の中断や延期も避けられるというメリットにもつながります。また、猛暑の中での練習が困難な地域もあるため、ドームでの開催は、全国の選手に公平なコンディションを提供する手段となり得ます。

TOPICS

□ 議論の先に、高校野球の未来を考える

伝統を重んじるか、選手の安全を優先するか。この二つの考えは、どちらも高校野球への深い愛情から生まれています。どちらの選択肢も一長一短があり、安易に結論を出すことはできません。

甲子園という場所が持つ歴史的な価値を維持しながら、現代の気候変動という新たな課題にいかに向き合うか。それは、単なる開催場所の問題ではなく、高校野球が今後も多くの人々に愛され続けるために、避けて通れないテーマとなっています。

技術の進歩や社会の変化を取り入れながら、未来の球児たちが安心して最高のパフォーマンスを発揮できる舞台をどのように守り、築いていくのか。この議論は、私たち自身に「何が一番大切か」を問いかけるものです。

感動、伝統、夢、そして何よりも選手の健康と安全。これらの要素のバランスをどう取るかという難問に、高校野球は今、直面しています。この議論の先に、高校野球の持続可能な未来が描かれることでしょう。

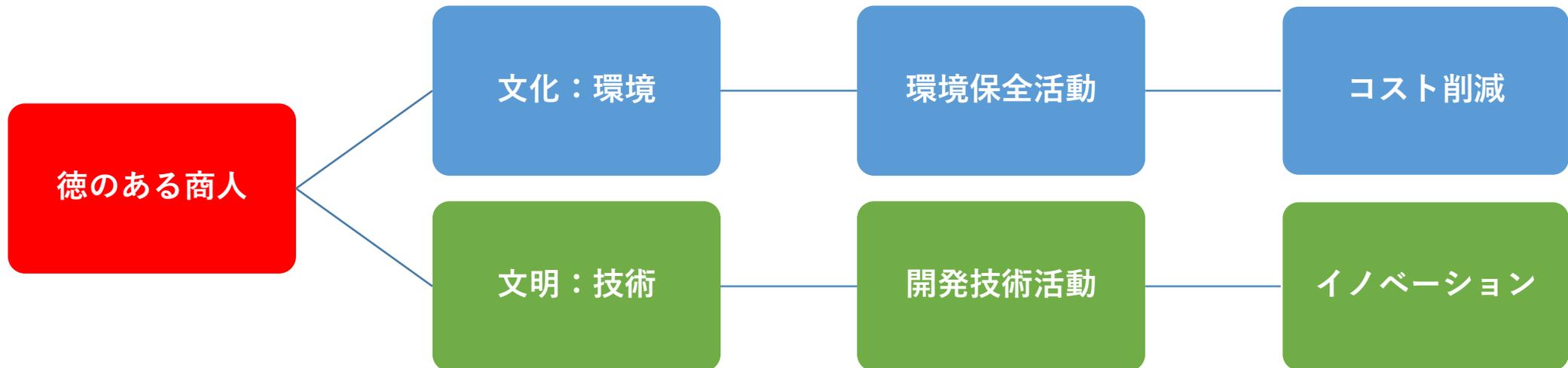
サンシングループ環境経営への歩み

1. 環境経営の基本マインド

* サンシングループ経営理念

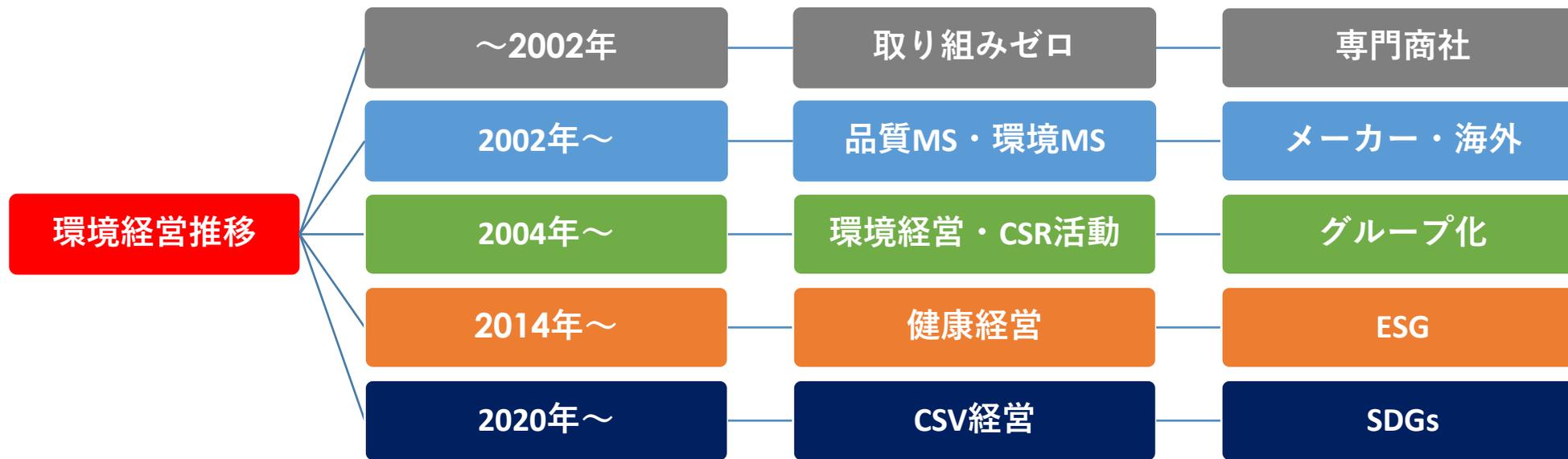
私たちは お客様を愛し お客様から愛される

徳のある商人を目指す：世界の**文化・文明**発展のために



2. 環境への取り組み

2002年から現在までの経緯



2. 環境への取り組み

～2002年

環境対応はコスト増の要因であり取り組む必要はないという認識。

2002年～

専門商社から海外商社，メーカーへと展開するなかで**環境MSを整備**。

2004年～

グループ企業体の発足に伴い**経営理念**を創設。 **CSRを能動的に展開**。

2014年～

健康経営を標ぼう，以後，東京都認定。

2020年～

CSV経営を宣言， **ESGとSDGs**を重視。

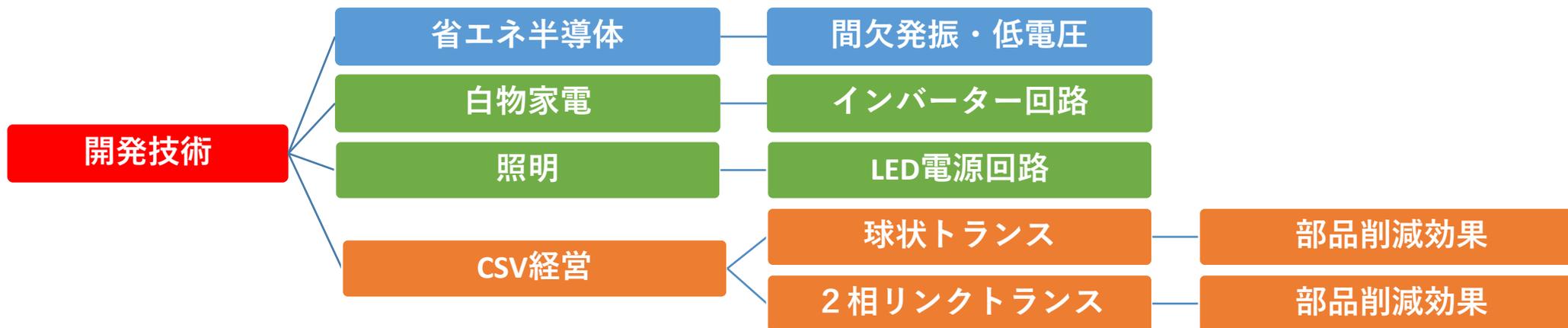
3. コスト削減実績

- **紙/ゴミ/電気**, 三種の神器, 徹底削減の継続
 - **テレワーク**による電気/交通費削減
 - 環境MS監査費用は増加（リアルコスト）
 - 環境活動時間は増加（バーチャルコスト）
 - コスト削減費用と増加費用の差額をマネジメント
- ⇒グループで年間約4,000万円※のコスト削減を実現！

※2004年度対比

4. イノベーション事例

- ・ 環境保全の開発技術ビジネス



4. イノベーション事例

省エネ半導体

専門商社として拡販

白物家電

白物家電向け**インバーター回路**の設計

照明

LED照明用の回路設計および電源製造

CSV経営

環境保全を鑑みた電子部品を**自主開発**

環境とイノベーションを結び付けた技術開発

CSV経営 モノ×コト = 価値創造

5. Scopeの対応

- Scope 1：該当なし
- Scope 2：電気排出量のみ（J/C/P合計）
『ESGレポート』掲載
- Scope 3：該当事項のみ集計
 - 4：輸送配送
 - 5：廃棄物
 - 6：出張交通費（旅費除く）
 - 7：従業員交通費

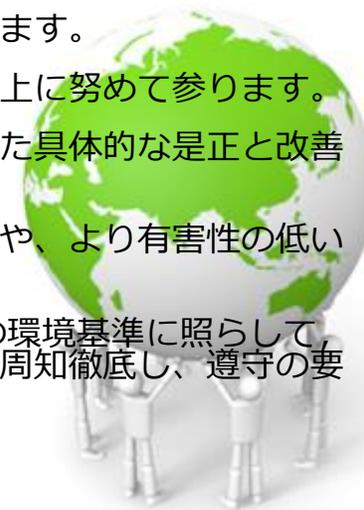
6. まとめ

- ほとんどのSME他社が取り組んでいない項目だからこそ「進取の精神」で取り組みます！
- 事業活動の中で可能な小さいことからコツコツ継続します！
- 環境保全活動はコスト削減とイノベーションのきっかけになります！
- サンシングループはこれからもサステイナブル企業としてサステイナブルな社会のために環境保全活動に取り組みます！

サンシングループの環境方針

サンシングループは、環境の保全と向上に関する企業活動を重要なCSRと認識し、継続企業の責務として、将来に渡り環境の保全と向上に貢献していくために、以下の環境方針を策定しています。

1. 企業活動において、いかなる場合も環境マネジメント・マニュアルを遵守し、お客様に信頼される継続企業として、環境保全と向上に努めて参ります。
2. 「紙・ごみ・電気」の低減を定量的に徹底管理し、地球環境の汚染予防をはかって参ります。
3. 独自性のあるイノベーション活動を通して、地球環境の汚染防止をはかって参ります。
4. 「安全・安心・快適」な職場環境を追求し、すべての社員が健康的に働くことのできる環境を実現して参ります。
5. 企業活動に係る法規制およびその他の要求事項に関して、コンプライアンスの遵守を通して環境の保全と向上に努めて参ります。
6. 環境マネジメント・システムは、定期的な内部監査およびマネジメント・レビューを行い、実態業務に沿った具体的な是正と改善をはかって参ります。
7. 環境放出化学物質の管理環境中に放出されると害を及ぼすと特定された化学物質については、使用量の削減や、より有害性の低い物質への代替、漏洩の防止などにつとめてまいります。
8. 製品に含まれる有害物質を特定し、「RoHS」等の法規制および「JAMPガイドライン」などの業界と顧客の環境基準に照らして、非含有およびそのための管理体制を遵守します。また、サプライチェーン上流の取引先にもこれらの基準を周知徹底し、遵守の要請を行ってまいります。





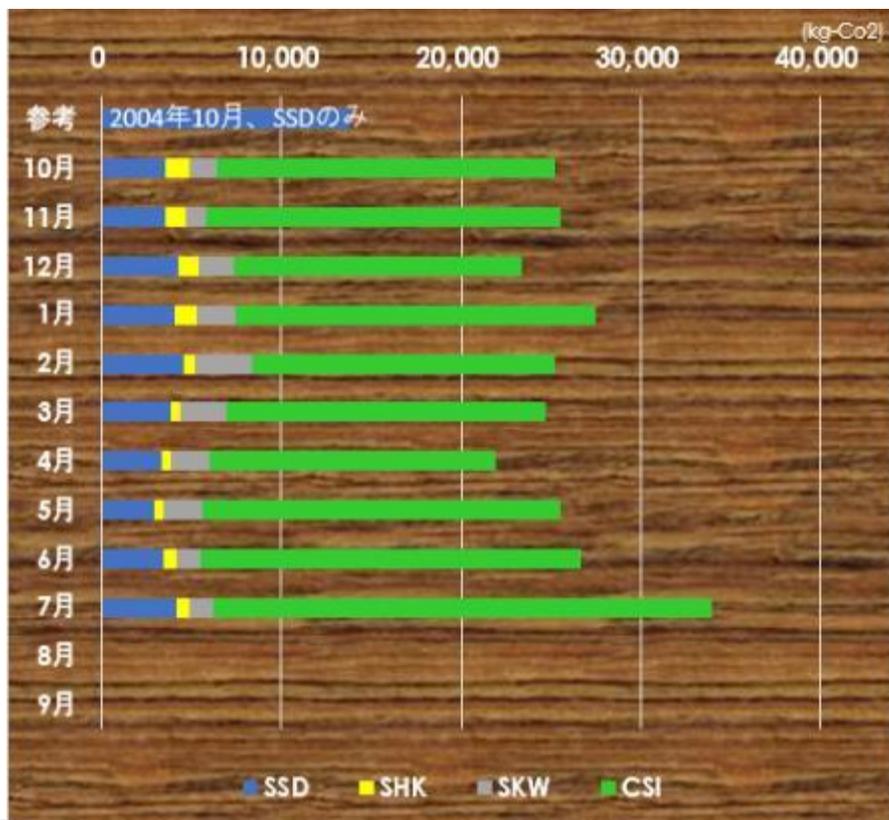
活動報告

- ① サプライチェーン排出量
- ② 廃棄物排出量
- ③ 電力使用量

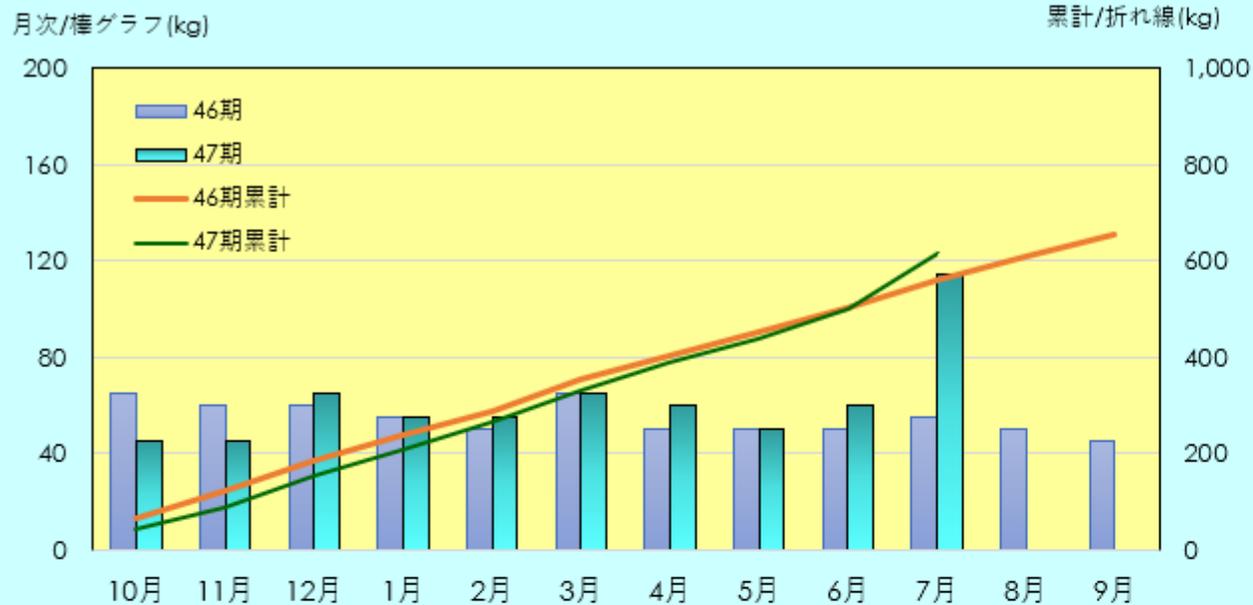
SSGサプライチェーン排出量

サンシングループではサプライチェーン排出量前年比▲5%に取り組んでいます

- Scope 1：該当なし
- Scope 2（他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出）
- Scope 3（事業者の活動に関連する他社の排出）



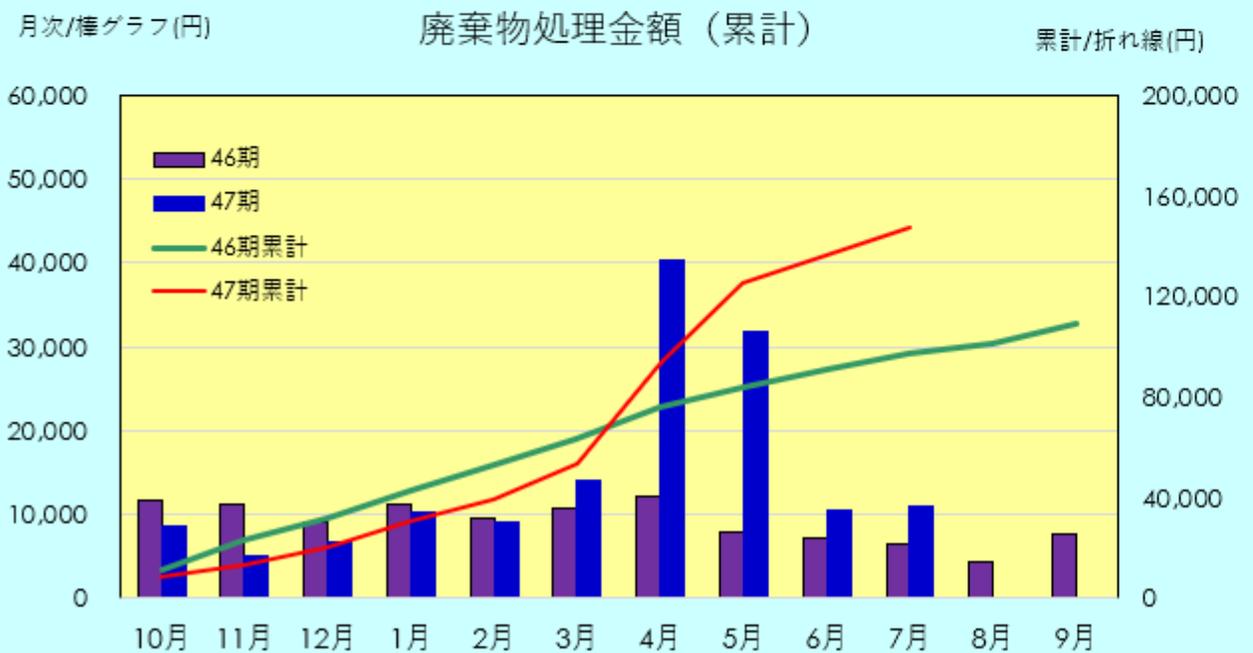
一般廃棄物 (SSD/本社)



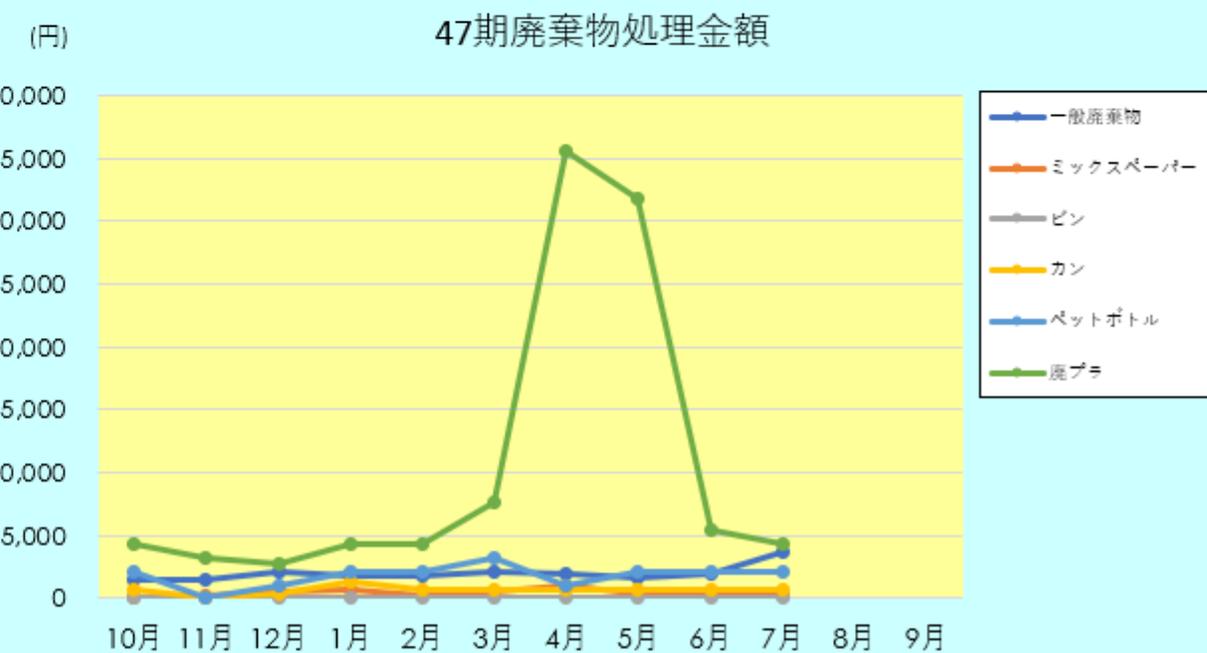
一般産業廃棄物 (SSD/本社)



廃棄物処理金額 (累計)



47期廃棄物処理金額



電力使用量 (SSD/本社)

月次/棒グラフ(kwh)

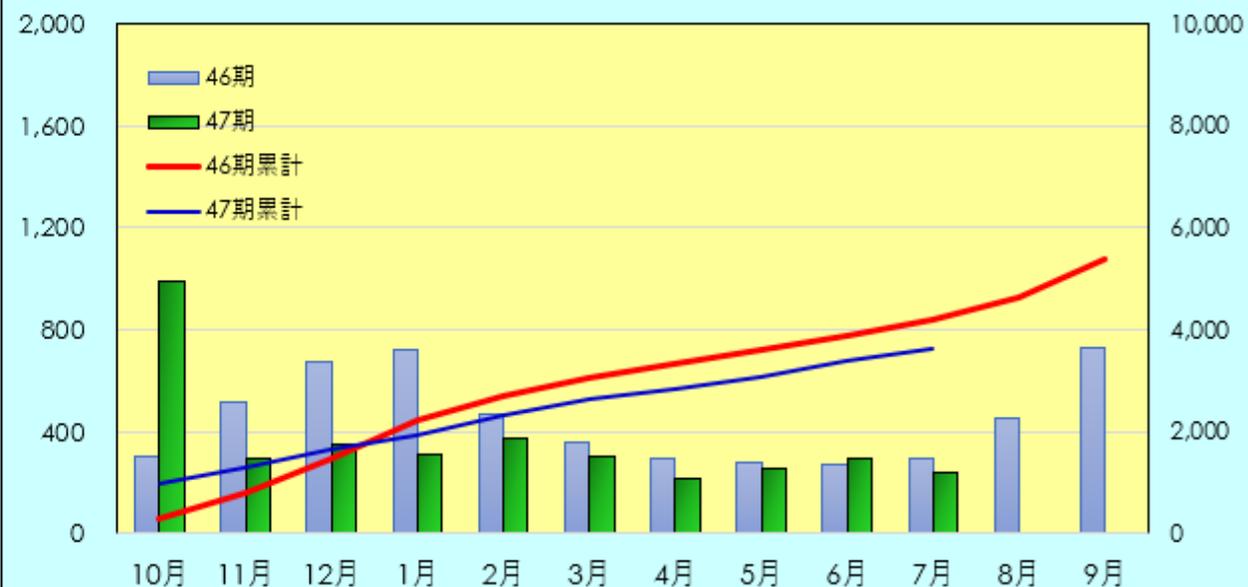
累計/棒折れ線(kwh)



電力使用量 (SSD/関西営業所)

月次/棒グラフ(kwh)

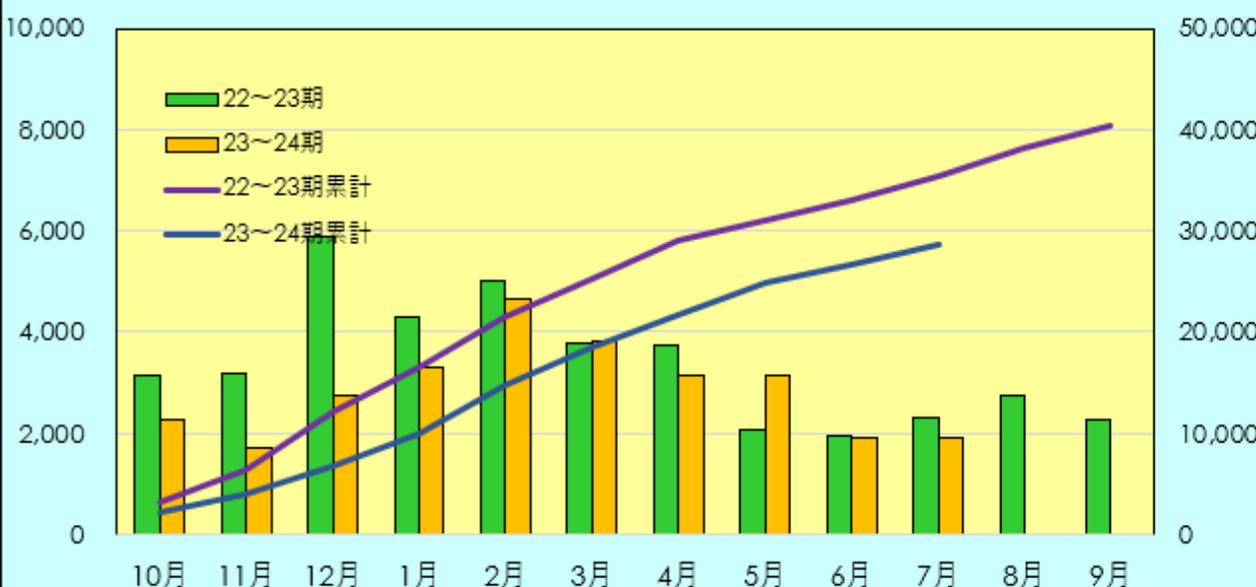
累計/棒折れ線(kwh)



電力使用量 (SKW/朝日工場)

月次/棒グラフ(kwh)

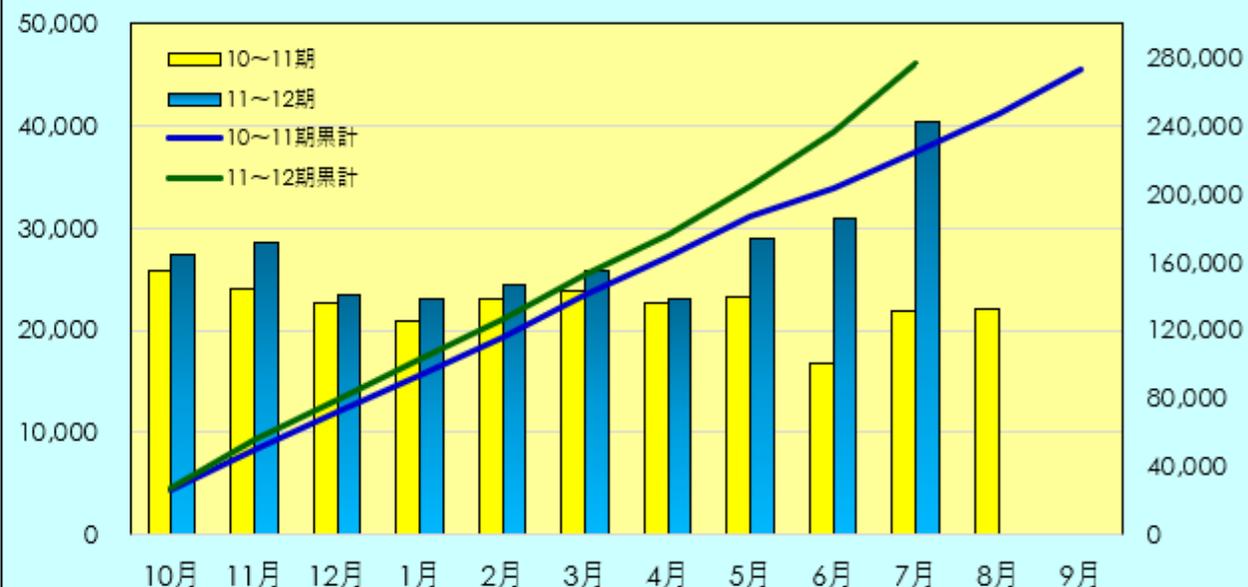
累計/棒折れ線(kwh)



電力使用量 (CSI)

月次/棒グラフ(kwh)

累計/棒折れ線(kwh)



ESG Report (地域貢献とワーク・ライフ・バランス)

今月のTOPICS

●一般社団法人ICTマネジメント研究会 第6回学生小論文アワード授賞式を執り行いました！

一般社団法人ICTマネジメント研究会が主催する学生小論文アワードの授賞式を8月4日にオンラインにて執り行いました。

エントリー70件、論文28本の応募があり、厳正な審査の結果、優秀賞2名・石井賞7組が決定しました。

オンライン授賞式では、審査員の先生方から講評や祝福・労い・激励の言葉が贈られました。受賞者には楯・表彰状・商品券等が贈られます。

サンシングループではICTマネジメント研究会を通じて、これからも社会貢献事業を積極的に展開してまいります。



活動報告

- ①地域貢献活動
- ②ワーク・ライフ・バランスへの取り組み
- ③人財育成への取り組み

地域貢献活動

- 地域雇用の促進
- 地域清掃の実施（7月参加人数：延べ4名）
- ハンディキャップのある方々の自立を目指すお弁当宅配センターから会議用お弁当を購入
- インターンシップ実習生の受け入れ（日本、中国、マレーシア）
- 近隣の小学校へ新聞を寄贈
- 企業メセナとして日本のワインや日本酒を購入
- 飼い主のプロを育てる「ドッグライフアカデミー」を創設

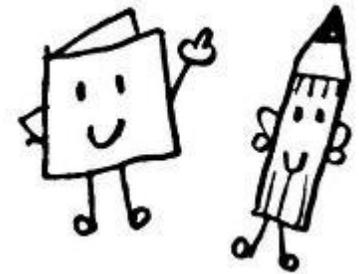


ワーク・ライフ・バランスへの取り組み

- 育児休業中も休業前のほぼ半額の給与支給。行政と併せてほぼ全額受給可能（累計実績5名）
- 育児短時間勤務中も、通常と同額の給与支給（累計実績6名）
- こども手当の支給（中学生未満）
- ご家族の急な病気やご家庭の事情、社会情勢に合わせて、在宅勤務又はテレワークが可能
- リフレッシュ勤務制度（勤務間インターバル制度）の導入
- 時間単位の有給休暇取得制度の導入
- 年2回実施の人事考課にて、ご両親または20歳以下の子供を扶養している社員への加点実施
- 勤続表彰者への特別休暇の付与及び記念品を贈呈
- 毎年1回、全社員対象に健康診断を会社負担で実施
- 東京都の「感染症対応力向上PJT」に参加し、コースⅠ（感染症理解のための従業者研修）達成（2016年1月）、コースⅡ（感染症BCPの策定）達成（2017年12月）⇒2020年8月「感染症BCP」を新型コロナウイルス感染予防対策も含め更新！
- 全国健康保険協会東京支部より「健康優良企業・銀の認定証」取得（2025年5月更新）⇒10年連続！
- 経済産業省・日本健康会議より「健康経営優良法人2021（中小規模法人部門）」の認定取得（2017年～2021年）
- 東京都より「スポーツ推進企業」、スポーツ庁より「スポーツエールカンパニー」の認定4年連続取得（2017年～2020年）
- メンタルヘルスケアの一環として従業員用オンライン相談フォームを設置（海外拠点からも投稿可能、匿名でも投稿可能、秘密厳守）

人財育成への取り組み

- ▶ 社内にサンシン大学（SSU）を設置。経営・法務・税務・情報セキュリティ・新製品紹介・ビジネス英会話・健康促進法・eラーニング等の講義を開講（World-wideでTeams配信実施。就業時間内に開講。会社が費用負担）
- ▶ サンシン大学への出席実績は、年2回の人事考課で加点対象
- ▶ EIGYOプログラムによる育成制度を整備しスキルアップを支援
- ▶ 自己啓発支援制度により、MBA/MOT取得や資格取得を積極的に支援
- ▶ 簿記、ビジネス実務法務検定、TOEIC・英検、QC検定等の取得により職能給UP
- ▶ 他社での技術研修、経理実務研修等を実施
- ▶ 年に1度、好業績を残した社員に対して社員表彰を実施
- ▶ “情報共有システム（Intelligence Shared Systems）”の活用により、日々PDCAP’を全社で共有し、TOP MANAGEMENTとの直接のコミュニケーションが可能
- ▶ 一般社団法人ICTマネジメント研究会による「学生懸賞論文」の実施（毎年開催）



サンシングループの経営理念とCSR

We love our customers,
We're loved by our customers,
Always be a Virtuous Merchant
to contribute to Cultures and
Civilizations around the World.

サンシングループのCSRは、経営理念を全役員・全従業員が共有し、100%のコンプライアンスを大前提として、企業活動の中で経営理念を実践していくことです。

コンプライアンスの基礎となる品質マネジメント・マニュアル及び環境マネジメント・マニュアルを策定・導入し、サステナブルな企業として永続的に電機業界及び社会の発展に貢献して参ります。また、ステイクホルダーとの信頼関係の構築を通して、社会の公器として企業の社会的責任（CSR）を果たして参ります。

経営戦略体系と管理会計のかかわり



サンシングループの社会的責任

サンシングループは、企業はステイクホルダーをはじめとする社会全体と共存して繁栄し、社会的責務を伴う存在であると考え、以下の取組みを実施しています。

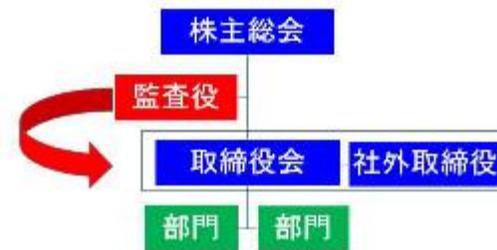
■ コーポレートガバナンス

経営者がコンプライアンスに準じた行動をしているか、コーポレートガバナンスにより、内部の業務監査を行っています。

■ CSR及び環境経営（ESG）

サンシングループではCSRに環境経営、品質保証、危機管理などの要素を含め、ホームページで活動内容を発信しています。特に環境経営はISOなどの環境マネジメントシステム（EMS）と連携した活動を実施しています。

コーポレートガバナンスと機関の役割



出所：石井 宏宗[2019]『わかりやすい！社長が教える経営学』創成社、13ページ。

CSRの基本的要素



CSRの新たな要素



出所：石井 宏宗[2019]『わかりやすい！社長が教える経営学』創成社、14-16ページ。

サンシングループの企業行動基準

サンシングループの倫理法令遵守企業行動基準は、「経営理念」を実践するために、企業倫理とコンプライアンスの観点から、基本的な姿勢を以下の通り定めています。

1. 私たちは、常に社会人としての自覚を持ち、高い倫理観に基づき、社会的良識に従って行動します。
2. 私たちは、あらゆる企業活動の場面において、関係法令および社内規定はもとより、利害関係者と取り交わした契約や約束を常に遵守し、全ての企業活動が正常な商慣習と企業倫理に適合したものになるよう努めます。
3. 私たちは、あらゆる企業活動の場面において、全ての人の基本的人権と個性を尊重し、オープンなコミュニケーションに努めます。
4. 私たちは、全ての利害関係者に対し、誠実に接するとともに、公平・公正かつ透明な関係を維持し、フェアな取引を行います。
5. 私たちは、会社の正当な利益に反する行為や会社の信用・名誉を損ねる行為を一切行いません。

サンシングループのマネジメント・コントロール・システムズ

サンシングループは、経営戦略達成のため、「アカウントティング・システム（財務的：定量的管理）」と「コントロール・システム（非財務的：定性的管理）」という2つのシステムから成るマネジメント・コントロール・システムズを導入しています。

このマネジメント・コントロール・システムズの「コントロール・システム」の基軸となるものとして、当グループ独自の品質マネジメント・マニュアルがあります。この品質マネジメント・マニュアルに基づき、ISO9000シリーズに準拠した品質方針、および環境マネジメント・マニュアルに基づき、ISO14001やエコステージなどの環境方針を策定しています。これらの方針に従い、コンプライアンス・品質・環境・地域貢献・人財育成等のCSR活動に努めています。



サンシングループのマネジメント・コントロール・システムズ

サンシングループでは、形式知化された業務をルール化し、業務フローと業務マニュアルを策定しています。

■ マネジメント・システム

マネジメント・システムにより業務を標準化し、企業活動に安定した品質をもたらしています。

■ 5W2HとPDCA→P' サイクル

PDCA→P' サイクルは計画策定のPlan、計画を実行するDo、計画と実行の差異を評価するCheck、評価から修正と改善を行い次のPlan(P')につなげるActionから構成されます。サンシングループでは情報共有システムなどを活用して、5W2Hを明示し、プロセスの進捗を可視化/共有しています。

マネジメントシステムの基本構成

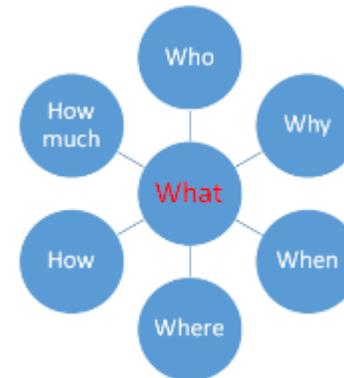


マネジメントシステムのレビュー

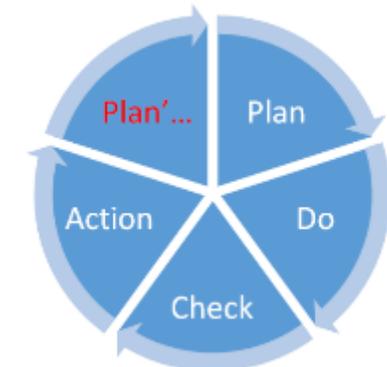


出所：石井 宏宗[2019]『わかりやすい！社長が教える経営学』創成社、48ページ。

ビジネスの5W2H



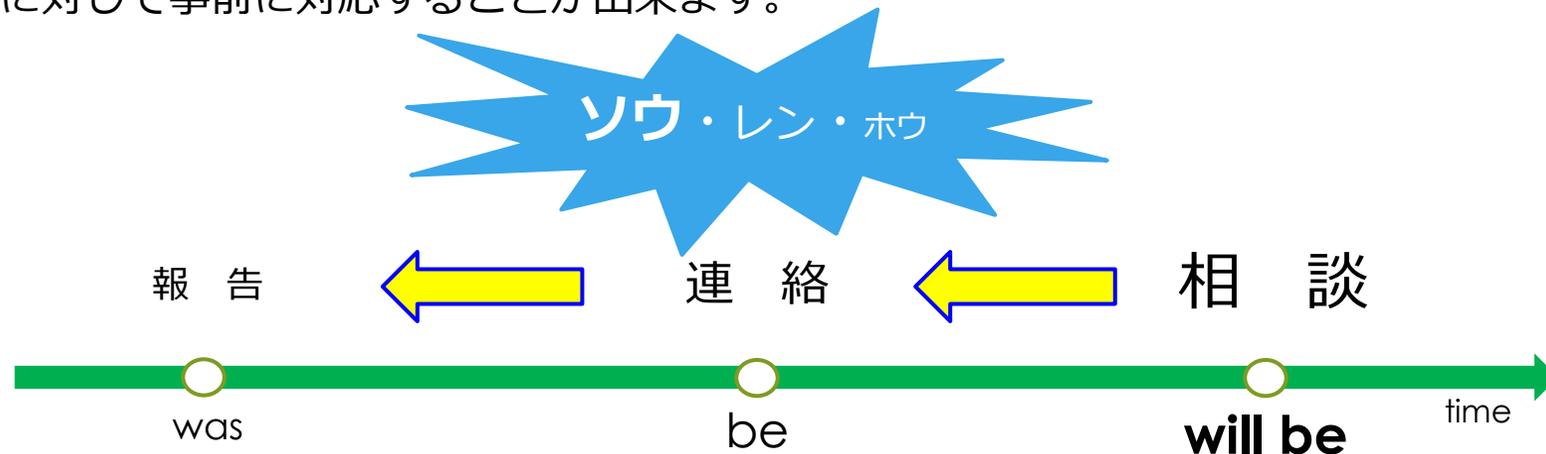
PDCA→P' サイクルの概念



出所：石井 宏宗[2019]『わかりやすい！社長が教える経営学』創成社、42ページ。

未来形から問題を解決するソウレンホウ

サンシングループでは悪い問題は過去形になる前に潰すことが重要と考え、一般的に言われるハウレンソウ（報告・連絡・相談）ではなく、ソウレンホウ（相談・連絡・報告）を励行しています。ソウレンホウにより、過去形（報告）ではなく未来形（相談）と現在形（連絡）の情報を共有し、予測される問題に対して事前に対応することが出来ます。



出所：石井 宏宗[2011]『経営とは生きること -企業家に求められる3つの視点-』税務経理協会、166ページ。



編集
後記

SSD, 営業管理課 Y.Y.

相変わらずの猛暑が続いています。そして新型コロナウイルスの変異ウイルスの流行が広がっています。通称「ニンバス」は強い喉の痛みが特徴なのだそうです。国内で流行している背景としては閉め切った部屋で冷房をつけ、換気が悪くなっていること、行楽シーズンを迎え、感染に気づかずに旅行して感染を広げていること、暑さが続き免疫力が低下していること、などが挙げられるようです。